

2026(令和8)年度 スローガン

さまざまなものに「ふしめ」があります。ふしめは当事者がこれまでの歩みを振り返り、これからのことをしっかりと考える機会でもあります。

ひょうご ID 陸上競技協会は今年6月4日で満10年となります。県内の陸上を愛好する生徒や就労アスリートたちに自分の力を試す場としてこれまで大会などを企画運営してきました。大会は「選手のために」というコーチやご家族の皆様、大会競技役員、学生ボランティアの皆様「熱い心」に支えられ開催することができました。ここに改めての感謝と今後引き続いてのご支援をお願い申し上げます。

本協会が創設以来掲げてきた「インクルージョン」「フォーオール」の精神、またそれぞれの選手が自分らしく参加できる大会の運営は、今後も大きな柱になります。

加えて、10周年記念イベントでは、選手のさらなるスキルアップをめざし、優れた理論とスキルをもっておられる多くのスペシャルコーチ陣の中から正副会長による実技指導をお願いし、登録選手だけでなく広く県民の皆様にも参加を呼びかけていきます。

さらには、選手の競争意欲を高めたり、チームプレーの醍醐味を味わったりする機会を作っていくため、オープン参加者を増やしたり、参加種目を加えるなどしていききたいと思います。

最後に、もともと脆弱な資金面での運営ですが、さまざまな創意工夫により支出を抑えながら、支援協力してもらえる企業等の発掘に努め、安定した基盤の上に立った運営が進められるよう取り組んでいきます。

以上の点を踏まえて以下に今年度重点的に取り組むべき課題について列記します。

1 10周年記念イベントを成功させよう！

11月28日、高砂市営陸上競技場での伊東浩司会長、小田俊明副会長による実技指導と全参加者によるリレーマラソンの開催。

2 オープン参加選手の拡大と参加種目の増設を図ろう！

兵庫マスタース陸上競技連盟などへの参加呼びかけによりオープン参加選手を増やしたり、3月の春季競技大会での400mリレーの導入をしたりして選手の競争意欲を高めていく。

3 資金の確保をすすめよう！

収入面では、これまでの県や他の団体等の助成に加え、障がい者スポーツ、とりわけ障がい者陸上に対し理解ある企業を訪問し協力、支援の依頼要請を行う。また、選手には2種目参加の場合の参加料の追加をお願いしていく。

支出については、事務費、とりわけ印刷費等を抑え込むよう支援団体を活用していく。

以上、本協会創設10年を迎えるにあたり、障がい者のスポーツ、とりわけ陸上競技を取り巻く環境をよりよく整え、障がいの有無にかかわらず、だれもがスポーツの楽しさと、共にスポーツすることの喜びを創出していきましょう。